

2013年5月17日

日本維新の会共同代表
大阪市長 橋下 徹 様
メディア各社宛て

国際婦人年連絡会

橋本 葉子
世話人 実生 律子
山口みつ子

**日本維新の会共同代表 橋下 徹 大阪市長は「慰安婦は必要等」発言を認め、
国内および関連諸国へ謝罪することを要求する**

日本維新の会共同代表 橋下徹 大阪市長の旧日本軍の「慰安婦」制度は「前戦で戦った勇敢な兵士等の休息」に必要であった等の発言は女性に対する冒瀆であり、女性の人権を無視した発言で断じて許されることではありません。

日本政府は、国連人権委員会・理事会、国連人権規約委員会、ILO から再三「慰安婦」問題の解決を促す勧告を受けています。

2009年には国連女性差別撤廃委員会から「被害者への保障、加害者処罰、一般の人々に対するこれらの犯罪に関する教育を含む永続的解決への緊急な努力」を再度勧告されました。

慰安婦問題は過去の話ではなく、今も重大な外交テーマであり、東アジア各国といかに付き合っていくかの問題という認識が欠如しているばかりか、日本の指導者が反人道的な犯罪を擁護し、歴史認識や女性の人権意識の欠如を示したことには失望するばかりです。

また米軍普天間飛行場で海兵隊の司令官に「風俗業を活用してほしい」と提案したことについて、女性を性の道具として都合よく利用することだけを考え、女性の人権を全く無視した発言であり、リーダーの資格はなく、市長を即刻辞めるべきと思います。

閣僚及び超党派の女性議員からも「女性のみならず、すべての人間の尊厳を傷つける発言」との強い批判の声があがっています。

この問題は、国内のみならず国連加盟国からも厳しく批判されております。

国際婦人年連絡会は、かねてよりこの「慰安婦」問題に関して、超党派の女性国会議員との会合を開き、解決に取り組んでまいりました。

そこで、維新の会共同代表 橋下 徹 大阪市長に対して以下の事を要求します。

1. 女性の人権を冒瀆した発言を認めること
1. このことに関し、国内および関連諸国に対して真摯に謝罪すること